

◎「全国学力・学習状況調査」の結果

小学校	算数	<p>○「A問題」は全国平均と同程度であり、今回出題の基礎的内容については概ね身につけていると考えられます。</p> <p>○「B問題」は、県と同様、全国平均を下回っており、知識等を活用して課題を解決する力を高めていく必要があります。</p> <p>○「図形」に関する問題については良好な結果を示していましたが、数学的な考え方を深めていく問題に課題が見られました。</p>	<p>○習熟度に応じて、発展的な課題、特に各領域を横断した課題を与えるなど、活用能力の育成を図る学習の工夫</p> <p>○社会科と関連をもたせたグラフの多様な読み取り方の指導法の工夫</p> <p>○自己の考えを筋道立てて表現する(書く)活動の充実</p>
	国語	<p>○「A問題」「B問題」とも、全国平均を上回っており、今回の結果においては、基礎的内容、応用的内容とも、よく身に付いていると考えられます。</p> <p>○領域別に見ても、どの領域もよい結果を示しています。特に「書くこと」「言語事項」については、全国平均を大きく上回りました。</p> <p>○全国もほぼ同じ状況ですが、語彙に関する問題の正答率が低い結果となっています。</p> <p>○わずかですが、「読むこと」について全国平均を下回っているという課題も見られました。</p>	<p>○読書活動の充実、新聞の有効活用等、語彙力を高める指導法の工夫</p> <p>○様々な資料等から必要な情報を取り出し、再構成して文を作成するなどの活動の充実</p> <p>○筆者の意図や作品の主題等を読み取り、それに対する自分なりの考えを表現していく活動の充実</p>
中学校	数学	<p>○「A問題」「B問題」とも、全国平均を大きく上回っており、基礎的内容の定着とともに知識等を活用、応用する能力も身に付いていると考えられます。</p> <p>○全領域とも全国平均を上回っていますが、「図形」領域だけはその差が小さく、課題と見ることができます。</p>	<p>○解に至るまでの自分の考えを書いたり、発表したりする活動の充実</p> <p>○円周角に関する知識・理解の充実と図形の証明に関する処理能力向上に向けた指導法の改善</p>

【生活習慣や学習環境等に関する調査結果（概要）】

小・中学校とも「食事のとり方」「起床・就寝時刻」「家の手伝い」「家庭での学習時間」等、ほとんどの質問項目で全国平均を上回るよい状況でしたが、以下のように全国的な課題ともいえる内容もありました。（小・中共通）

- 「海・山・湖・川などで遊んだ経験」については、全国平均を下回っています。日常生活における地域の特色を生かした遊び体験が不足がちな傾向が見られます。
- 家庭学習の内容において、「予習」の割合が低いという結果が出ています。特に中学生においては、予習にも力を入れていく必要があります。
- 新聞やテレビのニュースなどへの関心が低いようです。特に小学校高学年から中学校期にかけては、学校や家庭で社会の情勢等に関心をもたせるような働きかけも大切です。
- 地域行事への参加率は高いものの、「地域の歴史や自然についての関心」となると低い結果を示しました。特に中学生になるとその傾向が強くなります。地域・家庭・学校が一体となった活動の工夫が望まれます。

本調査結果は、本町全体の概要であり、各学校ごとにそれぞれ課題は異なります。今後、各学校が、各家庭や地域との連携も含めて児童生徒の実態に沿った指導を行っていきます。

教育課（学校教育チーム）  
☎ 22-0517